

理事長就任挨拶



宇都宮大学農学部同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。この度、常任理事会理事長にご指名いただきました、林学25回卒の田坂聡明と申します。農学部同窓生教員の最年長ということのご指名ですが、会員の皆様の中では、まだまだ若輩かと思えます。会長・会員の皆様のご指導のもと、同窓会運営に努めて行く所存ですので、宜しくご指導の程お願い申し上げます。

さて、今年は宇都宮でも7月はじめから、厳しい日差しが照りつける日々が続いてきましたが、大学では仏式庭園や英式庭園など、旧講堂を取り巻く樹木の緑陰効果のおかげで、市街地に比べしのぎやすい環境が保たれてきています。旧講堂といえば、同窓生の皆様の多大な協力をいただき改修・整備した後、「峰ヶ丘講堂」と名称を改め学内の諸行事に活用されてまいりましたが、この度、国の有形文化財第09-0234号として登録されるに至ったことをご報告致します。改修後の講堂の姿は、「NHKの朝ドラ」など、テレビや映画に度々登場しており、目になされた方も多きこととは思いますが、同窓会やオープンキャンパス、ホームカミングデーなどの機を捉えて、是非大学へお越しになり、直にご鑑賞いただければと思います。是非ご一考下さい。

さて、宇都宮大学の近況はというと、かつてのように農学部学生が下駄をならして学内を闊歩するような、バンカラで自由闊達な学生達の姿は消え、どこにでもある大学へと方向

峰ヶ丘同窓会理事長 田坂 聡明 (林昭52卒)

を転換しつつあるような印象を受けます。特に、独立法人化以降の大学予算の締め付けや、大学生き残りのための無益な組織改革の影響は大きく、大学の自治や自由な気風などは過去のものとなりつつあるところでは、かつてのように教員と学生が仏庭に集い、酒を酌み交わしながら自由に意見を交換する光景など今では望むべくもありません。

特に最近では、大学の生き残り策と称した無意味な大学の序列化や、業績主義化が必要以上に進んだことで、大学教員の研究志向が進み、教育がおろそかにされつつある様に見受けられます。また、農学部では、2016年にスタートした5学部体制のあおりを受け、学部・学科の規模が縮小されており、さらに現在進められている新大学院構想では、農学研究科自体が実質消滅し、全学を一つの研究科にまとめる体制が取られるなど、大きな転換の時期を迎えております。これらの改革を前進と見るかどうかの判断はここでは述べませんが、長年大学を見てきた教員としては寂しい限りの出来事です。

このように大学・学部的情勢は、今非常に速い速度で変化しつつありますが、農学部創立100周年を機会に、もう一度農学部の原点を見直し、同窓会会員の皆様のお知恵をお借りしながら、いま同窓会がなすべき使命を考えていきたいと思っておりますので、皆様にはより一層のご協力・ご教示を賜りますようよろしくお願いいたします。

新入生歓迎会の開催

平成30年度農学部新入生歓迎会が、4月9日(月)午後4時30分から、峰ヶ丘講堂で開催されました。混声合唱団の大学歌斉唱に始まり、会長挨拶、同窓会の説明、夏秋学部長の挨拶など、例年通り盛大に行われました。先輩の挨拶は、生物資源科学科2年の草島萌さんから、在学中にいろいろなことにチャレンジして欲しい、たくさんの人と交流してほしいと、学生生活についてのアドバイスが伝えられ、新入生は真剣に聞いていました。講堂での開催は、今回が初めてでしたが、講堂独特の温かい雰囲気の中で、大変和やかな会となりました。

